

1994年10月

## ディケンズ・フェロースhip日本支部 フェロースhipレター 2

さる10月8日に新年度(1995年度)のディケンズ・フェロウシップの総会が、東京女子大学の善福寺キャンパスで行なわれました。

1. 総会は理事の高見幸郎氏による司会により、総会に先だって開かれた理事会で作成した原案にしたがって議事が進められ、原案が全会一致で承認されました。議事の内容は以下の通りです。

a) 会計報告(同封報告書参照)

イギリス出張中の財務理事太田良子さんのかわりに財務を担当している山本史郎が報告しました。本年度への繰越金は前年度より増えていますが、これは特別な寄付によるもので、会費だけの収入を仮定すると、前年度は10万円ほどの赤字となります。これを引き起こした直接的要因は、前前年度の会費納入者が136名だったのに対して、前年度は約114名と減少していることがあげられます。会員自体が減少しているわけではないので、これは単なる出し忘れと考えられ、ただちに会費を上げる必要はないという小池支部長の判断にしたがって、本年度も会費が据え置かれることとなりました。(なお、当日配布した資料に不正確な部分がありました。支出の合計欄が、細目の実際の合計よりも1円多いというものです。改めて調査したところ、計算のミスではなく、「印刷費・印判」の項目の記載が実際より1円少ないという、転記ミスでした。同封するのはこの点を修正したものです。お粗末なミスお許し下さい。)

b) 本年度のディケンズフェロウシップ春季大会は、以下の通りに決まりました。

日時: 1995年6月3日(土曜日) 午後2時より

会場: 京都大学

同大学の佐々木徹氏が世話役です。ちょうどこの時期に日本での滞在が予定されているマイケル・スレイター教授の講演 and/or 朗読がプログラムに組み込まれることになっています。詳しい内容は追ってお知らせ致します。皆様のご参加をお待ちしています。またこれに関連して、同じ時期にスレイター教授に講演などをお願いすることが可能なので、もし興味がおありでしたら、佐々木徹氏に御連絡下さい。

c) 本年度の秋の総会は日時のみ10月7日と決まっております。関東地区で主催していただける大学などがありましたら是非お申し出ください。お願い致します。

2. 総会プログラム

前半は北條文緒氏の司会で、成蹊大学の村山敏勝氏が研究発表されました。「Martin Chuzzlewitにおける医術と詐術」という題名で、文化論的な立場から作品の中に医学と文学の対立を読みとるという、プロヴォカティブな内容でした。後半にはいと今度は近代ロシア史を研究されている、工学院大学の今井義夫先生が「19世紀南ロシアに実在した“ピックウィック・クラブ”」について興味深い講演をされました。“ピックウィック・クラブ”が1858年ごろニコライ・バーリンを中心にして設立され、それがやがて暴露文学の牙城となり、またそれゆえに官憲の圧力により衰退したというお話で、耳を傾けて聞いていると、まるで昔のロシアの小説を読んでいるような感じがいたしました。この後、懇親会が「こけし屋」でいつものように和やかな雰囲気の中で行なわれました。

3. 「会報」を同封します。

4. フェロウシップの会計年度は十月に始まります。本部発行の *Dickensian* は、会費を納入された方の数の部数分を一括して注文・送金しますので、会費の納入が遅れて本部送金後にとどいた場合には、*Dickensian* をお受けとりになれないという事態も生じかねません。同封の振替用紙で、お早めに送金されるようお願い申し上げます。

では、またお目にかかる日を楽しみに。